

幼小中一貫校づくりに関するQ&A①

平成27年6月20日発行

Q1 「幼小中一貫校」ってどんな学校なの？



A1 「幼小中一貫校」とは、幼稚園・小学校・中学校のつながりを深めながら、「幼小中一貫教育カリキュラム（計画）」にもとづく「学習面」と「生活面」の指導を、10年間連続して行っていく学校のことを表します。

Q2 「幼小中一貫校」のねらいは何？



A2 「幼小中一貫校」設置のねらいは、大きく3つあります。



【ねらい1】子どもたちの学力を伸ばす！

子どもたちの成長や学力等の状況に合わせた「学習面」と「生活面」の指導を連続して行うことで、子どもたちの学力の保障（学力向上）を図ります。福部ならではの特色ある教育を計画的に行うことも可能となります。

【ねらい2】子どもたちの生活面の不安を取り除く！

いわゆる「小1ギャップ」「中1ギャップ」をはじめとした、生活面における課題の解消を図ることで、幼稚園から小学校に入学したり、小学校から中学校へ入学するタイミングでは、通学方法や校舎が変わったり、教科による授業が始まり、授業内容が抽象化・専門化したりするなど、子どもたちにさまざまな変化が訪れます。中には、新しい環境に慣れるまで力を発揮できにくい子どもや、周囲になじめず疎外感を味わってしまうようなケースも考えられます。一貫教育により、幼稚園・小学校・中学校間の情報交換などが頻繁に行われれば、幼稚園児や児童生徒に対するきめ細やかで適切な対応を効果的に行えるようになります。

【ねらい3】福部の子どもを福部で育てる！

「幼小中一貫校設置」は、福部地域に学校が残るということを表します。中山間地の小規模中学校（生徒数が100人以下または通常の学級が3学級以下）に該当する福部中学校は、統廃合も含め、学校の適正なあり方について考えなくてはならない状況にあります。そのような中で、今、福部地域に「幼小中一貫校」という「新しい学校園」ができることは、福部の子を福部地域で見守りながら育てていくことができるということです。

Q3 「幼小中一貫校」の「メリット」は何？



A3 「幼小中一貫教育」のメリットを、先進校視察で訪問した「広島大学附属三原学校園（幼稚園・小学校・中学校）」の先生方は、以下のような話をしてくださいました。

- ◆幼小中10年間という「長いスパン」で子どもたちの成長を見取ることができます。
 - ・どんな力を子どもたちに身につけさせていくかが明確になり、見通しをもって子どもを育てることができます。校舎が一緒にあることで、直接その姿を見取ることができます。
- ◆交流活動（異年齢・異校種交流）により、自分を見つめ直す機会が持てます。
 - 子どもたち：自分が成長し、いろいろな立場に立つ経験を通して、自分の姿を振り返ることができます。また、自分の近い未来の姿（モデル）が身近にあることで、意欲をもって活動に取り組むことができます。
 - 保 護 者：「わが子もあの時こうだったんだ」「今できなくても必ずできるようになるんだ」「あの頃と比べてずいぶん成長したんだ」と子どもの成長を長い目で見ることができます。
 - 先 生 たち：「この地域でしっかりと子どもたちを育てていくんだ」という責任感が強くなり、自分の学校以外の教育について理解が深まります。
- ◆幼稚園のことも、小学校のことも、中学校のことも知っているという「強み」が持てます。
 - ・顔を知っている、名前が分かる、声をかけることができる、教師も子どもも保護者も、そして地域も……。また、校舎が一緒にあることで、子どもも保護者も、出会う機会が増えます。そのことが、「安心して通うことができる」「安心して我が子を託すことができる」学校づくりにつながります。

三原学校園が挙げている「メリット」は、福部地域にも当てはまると考えられます。メリットを最大限に生かせるよう、幼稚園・小学校・中学校間のつながりをより深め、しっかりした「幼小中一貫教育カリキュラム（計画）」を作り上げていきます。

Q4 「幼小中一貫校」に「デメリット」はないの？



A4 デメリットと言うより、「幼小中一貫校」になっても「変わらない部分」があることは確かです。「小規模校」であること、子どもたちの「固定的な人間関係」が10年間そのまま続いてしまったり、学年や校種の「節目」がはっきりしなくなったりする可能性があること、などが挙げられます。「幼小中一貫校」になったから、部活動が増えるということも、規模を考えると現状では困難な状況です。

したがって、子どもたちの人間関係がネガティブな方向に向かわないよう、しっかりとケアしていくことが必要だと考えています。そのためにも、福部の子どもたちが、「井の中の蛙」にならないように、「幼小中一貫教育カリキュラム（計画）」を工夫し、教育活動の中に取り入れていきたいと考えています。そして、刺激を与える授業や学校行事の工夫を行っていききたいと考えています。

文責：幼小中一貫校推進委員会啓発部会 長石 彰（福部中学校教頭）